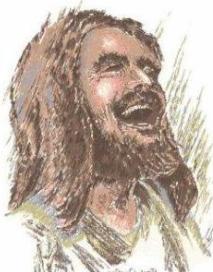


「神の作品として生きよう」

エペソ人への手紙 2章1～10節



前回はこの箇所の前半に記された、私たちの「かつて」と「いま」について目を向きました。創造者である神から離れたために結果的にこの世の流れに流され、自分の欲望に支配されていた私たちです。しかし、神はそのような意味で「死んでいた」私たちを、キリストとともに「生かして」くださいました。それは神の恵みです。

その恵みは、私たちが神の子どもとされたことにとどまらずに、私たちの人生のすべてにおよんでいます。私たちは神の傑作品、代表作品だと語られています。

① 神の恵みによって始まった人生

“しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。…” 4-

“この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たではなく、神の賜物です。” 8

② 神によって私たちの人生は造られる

“実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。”

10

“ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。” 1コリント 15:10

③ 私たちをつらぬく神の愛

“しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに…” 4

“神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。…このキリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。” 1:5,7

○話し合ってみましょう

・私たちは、恵みにより信仰によって救われたのにもかかわらず、与えられた救いを自分の正しさやあるいはよい行いをすることによって完成しようとしているのでしょうか。